

ISO 9001の概要



株式会社マネジメントセンター

(1) I S O 9 0 0 1 について

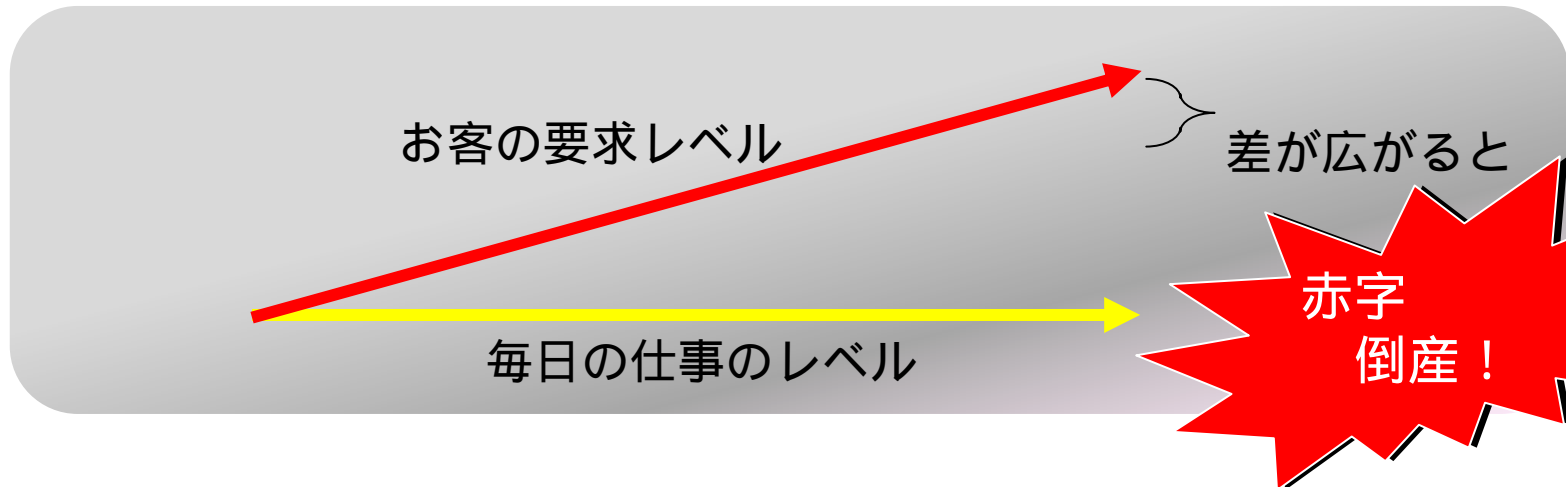
(2) 規格要求事項と審査

(3) 認証取得のポイント

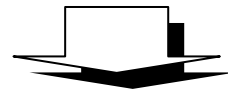
(1) ISO9001について



企業が生き残るには



日常の仕事に追われて、同じ仕事の繰り返し

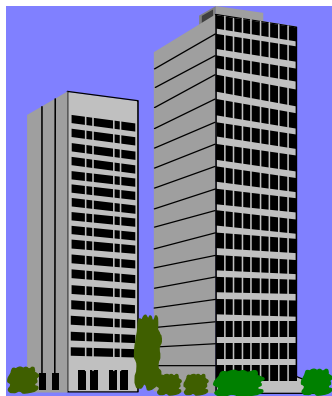


常に仕事のレベルアップが必要 継続的改善



国際規格の力を活用して、経営革新 ISOの認証





**ISO9001とは
国際標準化機構（ISO）が発行している
『品質システムに関する国際規格』である**

国際標準化機構

International Organization
for Standardization



各国の標準化機関（ISO加盟団体）を
まとめた世界的な連盟組織

ISO9001は製品の品質でなく、
経営システムについての規格



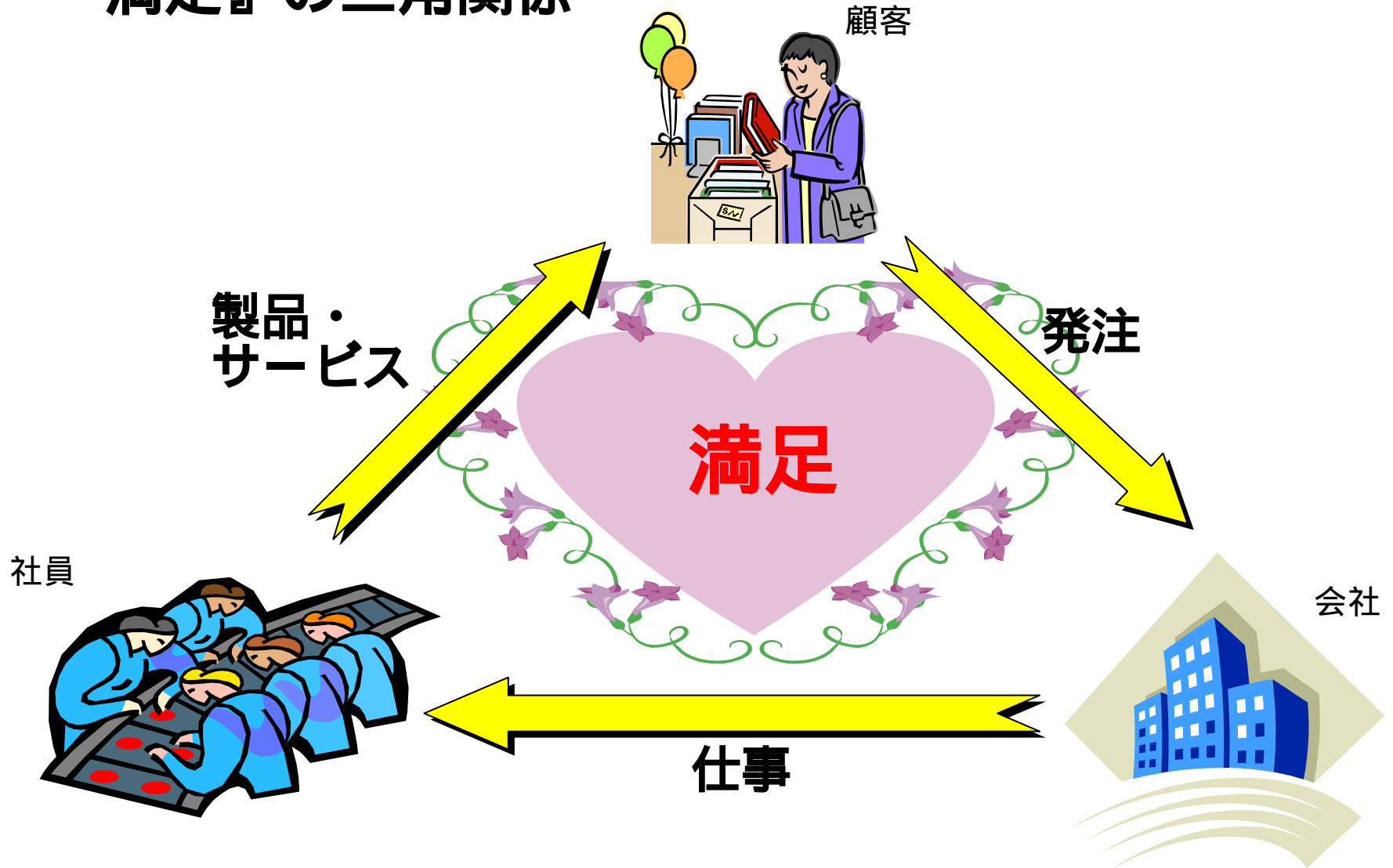
良い製品を生み出すために、
仕事の方法を決めて実行

顧客満足が企業存続の基本



顧客満足を得るための
基本的な仕事のルールを決めたもの

『満足』の三角関係



ISO9001の特徴

国際的な経営システムのパスポート

ISO9001の特徴は国際機関による認定であり、社会的信頼性が非常に高いことが特徴

定期審査の有効性

JIS規格やデミング賞は取得・受賞がゴール

ISO9001は認証取得後も、定期審査（1年または半年毎）があり、システムが有効であるか確認し、継続的改善で社会的信頼性は高い

TQC（日本の品質管理）とISOとは何が違う？

TQC（日本の品質管理）	ISO（国際品質システム）
企業側からの発想	顧客側の発想
外部から品質システムは見えにくい	顧客が確認できる品質システム
製品を供給する企業が品質向上のために自発的にする活動	顧客の要求に対して、顧客が納得できる形に品質システムを構築
作業のマニュアル化、文書化は不得手	作業のマニュアル化・文書化で業務標準化
個人の能力に依存	品質システムを構築した上での、組織的な活動が必要
現場からのボトムアップによる活動	経営者からのトップダウンによる活動

企業の抱えている問題、課題

会社の経営体質・業務体質が古いまま変わらない
製品・サービスの品質問題が、なかなか直らない
利益のせる業務システムが確立できない
仕事のやりかたが個人毎にバラツキがある
責任の所在が不明確で、無責任体制
社員のレベルがあがらなくて困っている



ISO導入を経営問題解決の有効な武器へ



ISO9001システムの特徴、効用

経営者・責任者のリーダーシップによる経営改革

「是正処置」の実施で、問題の再発防止

業務のポイントを管理して、計画どおりの実践

文書化し、仕事を標準化

責任と権限の明確化で、しっかり業務を遂行

教育・訓練で、従業員のレベルアップ



ISO9001導入によるメリット・効果

外的メリット

ISOで社会的信用、信頼の獲得
企業、事業所のイメージアップ
受注、契約の増加

内的メリット

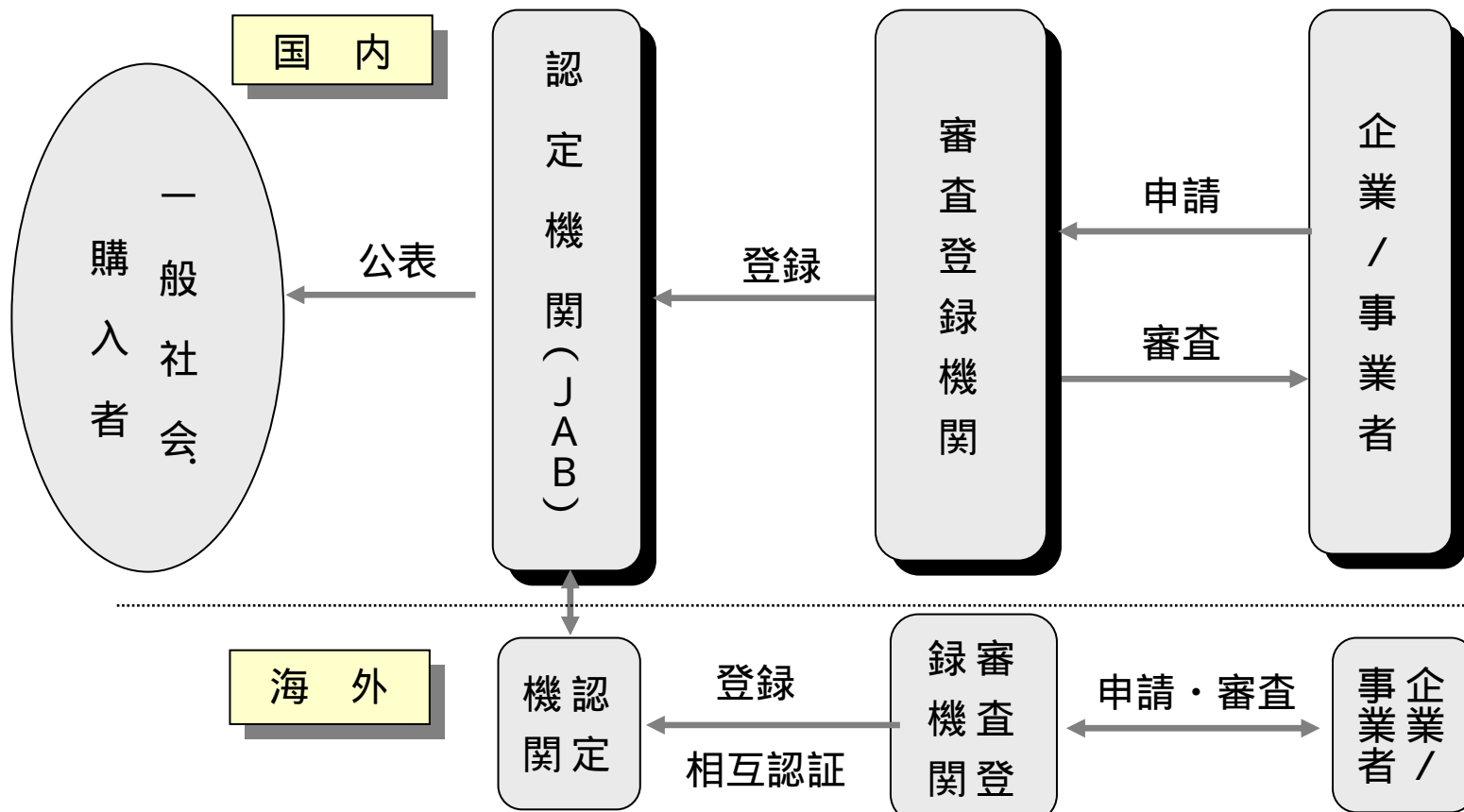
会社の体質を変える大きな原動力
会社の利益・業績改善に直結
継続的改善による会社の存続と成長



ISOの審査登録認定制度

国際的な相互認証制度

・国内、海外どちらで認証されても国際的に通用する



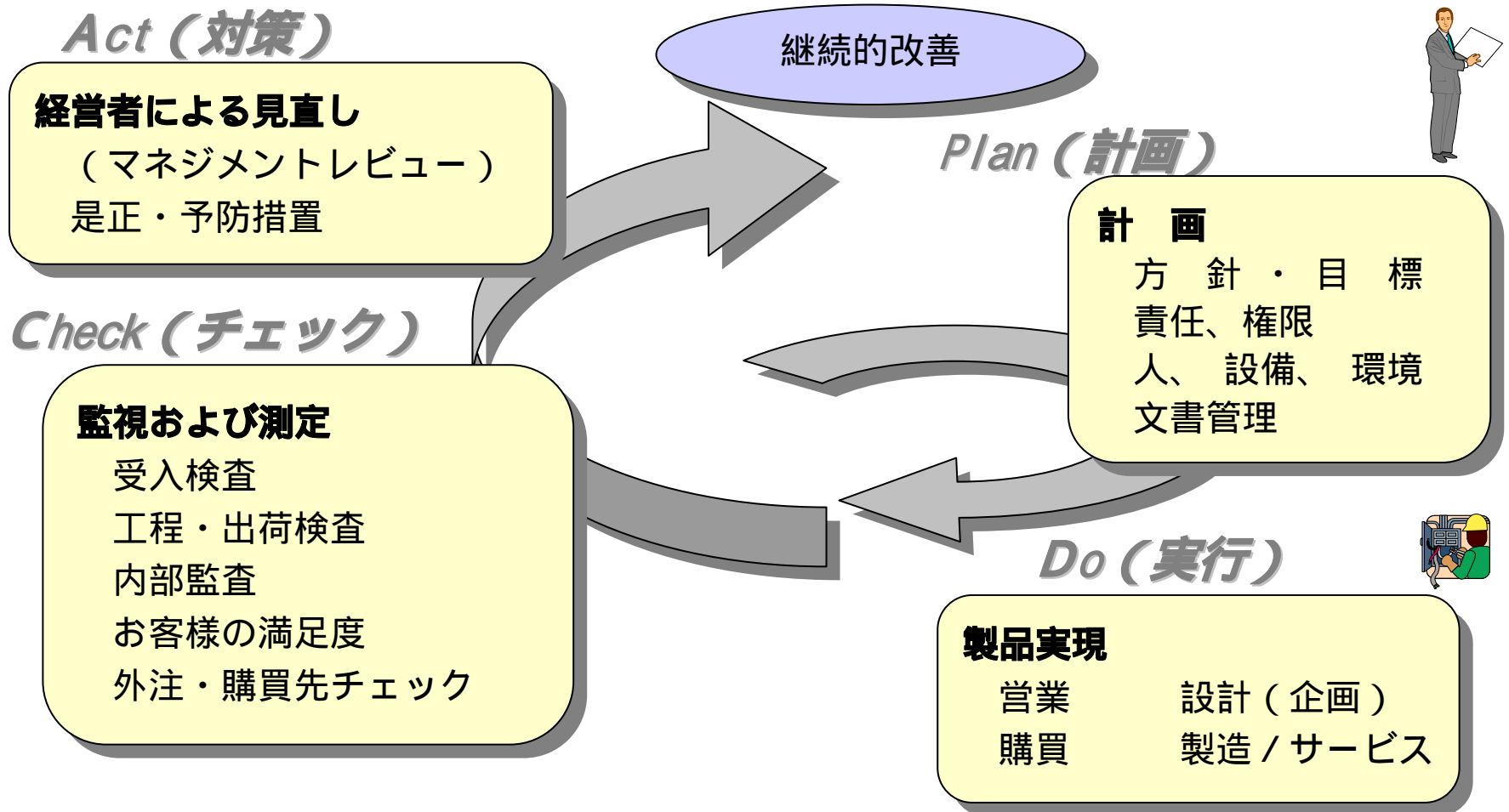
各国の審査登録機関の認定機関

国名	機関名	設立年	国名	機関名	設立年
オランダ	RvC	1981年	アメリカ	RAB	1991年
イギリス	UKAS	1984年	カナダ	SCC	1991年
フランス	AFAQ	1988年	オーストラリア	JAS - ANZ	1991年
ドイツ	TGA	1991年	日本	JAB	1993年

(2) 規格要求事項と審査



(1)ISO 9001のマネジメントサイクル

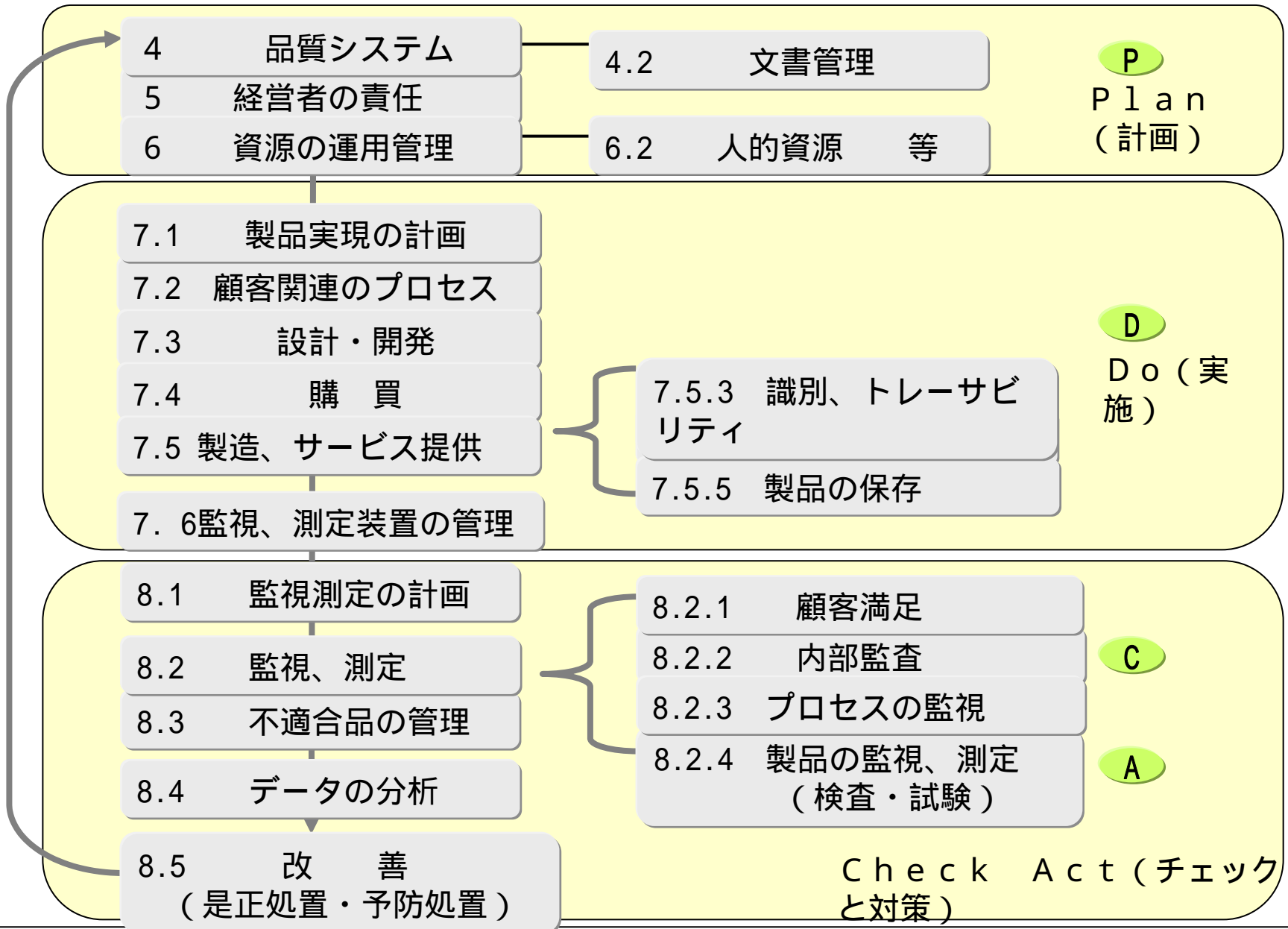


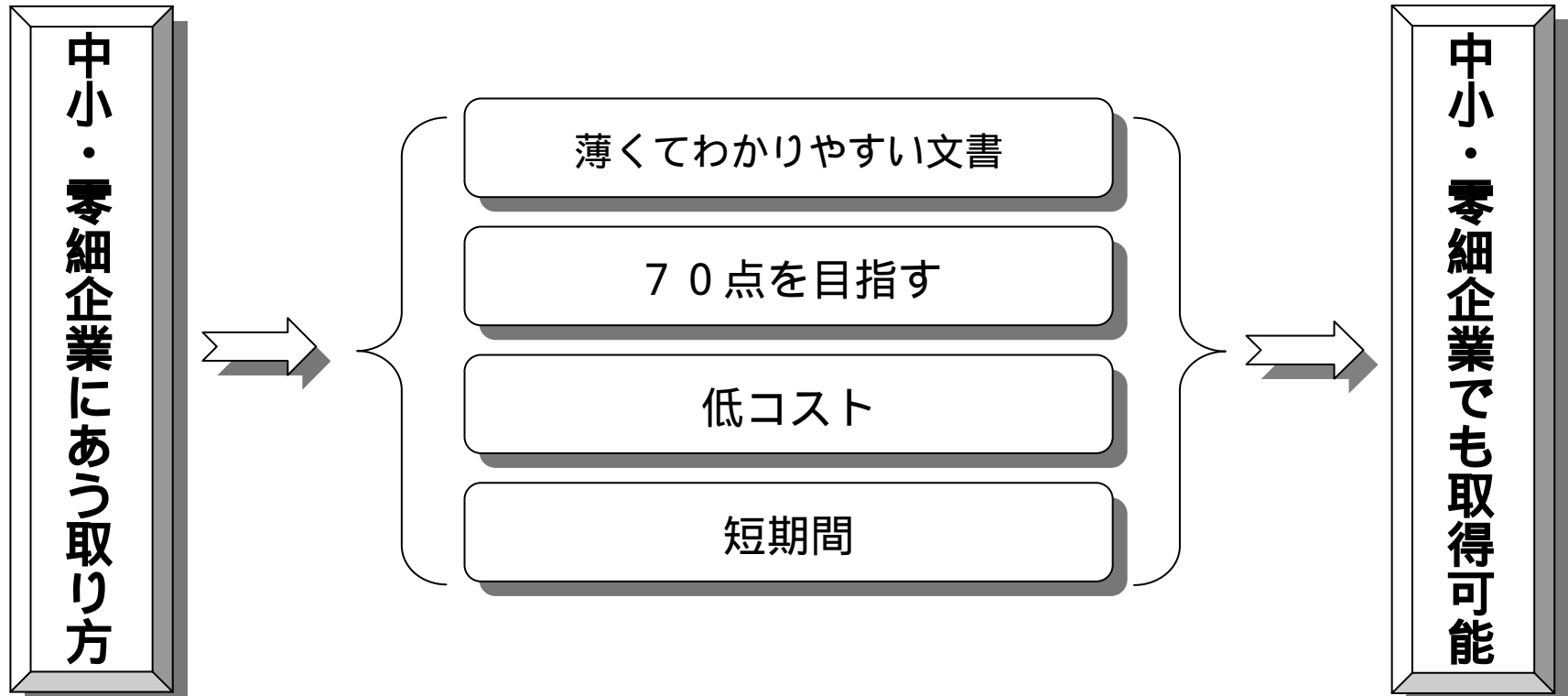
社会の要請と顧客の要望に応える
継続的な品質改善を目指す
経営トップがマネジメントを実施

合理的な文書システムを作成
手順に沿ったバラツキのない作業



(2) ISO 9001規格の要求事項





- (1) 経営戦略として、経営者が先頭になって取り組む
- (2) 会社の生き残り・成長の有効な武器として活用
- (3) 普段の仕事を基本に、無理のない仕組みを作成
- (4) 従業員に必要性を理解させ、一丸となって取り組む
- (5) 規格と審査のポイントを押さえて効率的に取得